

読者対象に子どもを加えた紙面改革を！

長野県NIE推進協議会会長
信州大学教育学部教授

澁澤文隆



新聞各紙では、今、紙面の活字をひとまわり大きくする動きが広がっている。大きな文字は、特に視力の衰えた高齢者に配慮した措置だろう。大きな文字にすれば当然文字の量が減る。しかし、各紙とも情報はこれまで通りか、それ以上とアピールしている。それは、各記事が要約化、ダイジェスト化されることを意味している。そして、それはどうも新聞離れの目立つ若者に配慮した措置のようでもある。そういえばインターネットの新聞記事はいずれも要約版であり、それで若者は済ませているし、十分と思っている。各記事を要約化すれば、確かに様々な記事が掲載できるし、活字を大きくしても情報量としては増やすことができるだろう。でも、それはしだいにインターネットの記事に近づくことであり、新聞の持ち味を失っていくことにならないのだろうか。

ところで、こうした動きを見るにつけ、NIEにかかわる関係者の一人として不満に思うことがある。それは、相変わらず読者対象を大人に限定した改革しか行っていないということである。何で子ども向けの対策を検討しないのか。高齢社会、若者の新聞離れを考慮すれば、お年寄り、若者向けの対策をとるのは当然であり、異存はない。しかし、一方で将来を考え、子どもの時期から新聞に親しませようとするならば、子どもも読者対象に含めるための方策を検討し、具現化する必要があるのではないか。

NIEが学校教育にいまひとつ広がらない背景の一つに、大人を読者対象にしているものを、子どもが学ぶ教材としてそのまま教室に持ち込むということに、多くの教師が抵抗感、疑問を抱いているということがある。考えてみれば、教師は、日夜、子どもにとって学びがいがあり、子どもの能力をはぐくむ学習ができるよう、教材開発に苦労、工夫、努力している。その基本は、子どもの目線に立って検討することであり、子供でも手が届くかたち加工し、わかりやすく効果的な教材を開発することである。環境教育や法教育、経済教育など、さまざまな時代的要請を背景にした〇〇教育は、そうした方向で悪戦苦闘している。

それに対して、新聞業界は、読者対象は大人、その大人用の新聞を子どもの学習に活用し、新聞に親しませよと要請している。小学校の国語科や社会科の教科書と新聞を見比べてみると、差は歴然である。その教科書ですらなかなか消化するのが困難な子

もが少なくない。そうした状況で新聞を取り入れるのは基本的に無理がある。

家庭に宅配される一般紙は、テレビやインターネットと同様に、家族で利用し読みこなしたりするものであるべきである。専門業界紙や機関紙はそれぞれ読者対象を限定しており、目的が明確だから今後も必要に応じて生き残っていくであろう。しかし、一般紙は、特に家庭に宅配される一般紙は、今のように大人だけを読者対象にしていたのでは、新聞離れが進むだろう。ましてや、子どもの時代に無理やり新聞を読まされたりすると、新聞というのは授業で半ば強制的に読まされたおもしろくないものなどといった印象だけが残り、むしろ成長と共に新聞を敬遠し新聞離れすることになるだろう。

このように考えると、子どもの時代から、テレビやインターネットと共に、新聞にも親しませることは大切である。そのためには、基本的に、新聞自体が子どもをも読者対象に加えるための積極的な対策を施す必要がある。そして、テレビとは一味違ったかたちで、新聞が子どもの知的好奇心や学習意欲を喚起する存在となり、子どもにとっても新聞はおもしろいものであり、情報源となっていく必要がある。世代を超えて参加、観覧するようなイベントでは、大人だけでなく子どもにもインタビューし、談話を掲載してほしい。学校が主体になって活動しているイベントや行事など子どもの関心事に関する記事を、子どもが読める内容で記事にしてほしい。そして、子ども同士が新聞を通じて交流できるようなコーナーも設定してほしい。政治や経済、社会のことで子どもにもぜひ学び、考えてほしいと思う内容には、コーナーを設けて子供用の解説記事を書いてほしい。

現実の社会に生起していることと自分、自分たちとのかかわりが新聞を通じてわかる関係になれば、子どもも新聞を開くようになるし、教材として授業に抵抗なく取り入れることができようになる。何よりも、新聞を中心にして家族が話し合ったり、週末のスケジュールを相談したりするようになるだろう。そうすれば子どもの時代から新聞に慣れ親しみ、大きくなっても抵抗なく新聞の愛読者に加わっていくだろう。

子ども用の記事は、活字の色を変え、教育漢字を用い、丁寧語などを使ってわかりやすいものにすればよい。そうすれば、新聞が言葉の学習、コミュニケーションの学習にもなり、国語力の素地や活用力をはぐくむ機会にもなる。社会への関心や社会参画を促すものとして貴重な存在にもなるだろう。それだけに、NIEの関係者として、一般紙を発行する各新聞社に、活字を大きくするだけでなく、子どもを読者対象に含むための紙面改革に本格的に取り組むことを要請したい。

今年度も、新聞を活用した真摯な実践研究が各校で展開され、ここにその成果が報告書のかたちでまとめられた。さまざまな限界を感じつつも前向き、建設的に取り組んだ貴重な実践であり、これらを参考にしてさらにNIEが進展することを切に願っている。